

甲賀市教育委員会

教育長 西村文一様

### 甲南中部小学校再編検討協議会 報告書

甲南中部小学校再編検討協議会では、市教育委員会が示された「甲賀市幼保・小中学校再編計画（基本計画）」（以下、「再編計画」という。）に対し、令和2年9月から6回にわたり、協議の場を持つとともに当協議会では保護者アンケートを実施し、保護者とともに子どもの考えもお聞きしながら、子どもたちの教育環境について協議を重ねてきました。

再編計画で述べられているように、社会性を育てるためにはある程度の人数の中で協調性や適応力を育む必要があることや、老朽化する施設設備の改善、将来的な児童生徒数の減少などから、統合案に一定理解をします。

一方、統合することで児童数が増えれば、児童に先生が目が十分に届かないのではないかと、また、統合により学校が遠くなることで子どもたちが通学に苦勞するようになれば、子どもたちの負担とともに若い共働き世代から子育てに不便な地域として敬遠され、過疎化がますます進むのではないかなどの不安があります。

また、小学生時代の教育は、ゆっくりと時間をかけて子どもの個性を引き出すことも大事であり、甲南中部小学校は、その規模から先生と児童、子ども同士の関係が生まれ、また地域住民の支援や協力のもとで一人ひとりがのびのびと過ごせる良い環境にあると考えます。したがって、当面の間は児童数の変化は小さいという見通しであることから、現在の規模で教育活動を充実させることが良いと考えます。

ただ、甲南中部小学校は小規模校でありながら、毎年クラス替えができる児童数にはわずかに至らないために学級定員いっぱいの状況にあり、先生が目が行き届きにくく、児童全員へのケアが十分ではないのではないかと保護者は懸念しています。そのため、子どもたちの個性に応じて寄り添った教育をしていただくことが大切であると考えますので、まずは、このような現状を課題として捉え、更なる少人数学級編成の検討を進めていただくことを望みます。

以上のことから、保護者や地域の思いを考えますと、現時点では現状の小学

校区を維持させることが望ましいと考えます。

しかしながら、更なる少子化が懸念されることからその状況を考えると、どの地域の子どもたちにとってもより良い教育環境の実現のためには、状況に応じた段階的な統合を検討する必要もあると考えます。

市教育委員会におかれましては、今後とも子どもたちの教育全般に対して一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げ、協議会の報告といたします。

令和3年3月24日

甲南中部小学校再編検討協議会

委員長 倉 崎 富 司